

令和2年7月21日

## 連続オンライン・シンポジウム「「コロナ以降」の現代アートとそのエコロジー」

## 8/7（金）開催

文化庁は、日本の現代アートの基盤整備を目的とする文化庁アートプラットフォーム事業（事務局：国立新美術館）を展開しています。この度、「コロナ以降」の新しいアートのあり方について議論する連続オンライン・シンポジウム（ウェビナー）「「コロナ以降」の現代アートとそのエコロジー」の開催が決定しました（全5回）。第1回は、「美術分野における「コロナ以降」の海外発信・国際交流とは？」をテーマに、8月7日（金）16:30からオンラインライブで開催いたします。

世界的に多大な困難をもたらしている新型コロナウイルス感染症は、現代アートを取り巻く環境にも大きな影響を与えています。国際的な展覧会や国際交流、国際輸送、リサーチ、レジデンスなど、国境を越える活動は当面の見通しが立たず、多岐にわたる再考を迫られています。こうした状況において、国内外の現代アート関係者が諸情勢を共有し、個々が抱える具体的な課題について議論を交わすことで具体的なアイディアの交換につなげていくことを目指します。今後の現代アートのあり方について、関係者、参加者が一緒に考える機会としたいと思います。

参加費不要（事前申込制、先着1,000名）。どなたでもご参加いただけます。

## ＜プログラム概要＞

- 日時： 2020年8月7日（金） 16:30～18:00
- 会場： オンラインライブ配信（日英同時通訳あり）  
配信場所：国立新美術館 3階 講堂（東京都港区六本木7-22-2）
- テーマ： 美術分野における「コロナ以降」の海外発信・国際交流とは？
- 概要： 世界の美術館のほとんどが臨時休館を余儀なくされ、再開以降も、国境をまたぐ活動は制限されているなか、「コロナ以降」の海外発信や国際交流は今後、どのような形になっていくのか。ドイツ、イギリス、ニュージーランドの文化政策担当者が議論する。
- プログラム内容（敬称略）：
  - 16:30 - 16:40 挨拶・概要説明  
片岡 真実 森美術館 館長／日本現代アート委員会 座長
  - 16:40 - 17:10 登壇者によるプレゼンテーション  
ペーター・アンダース ゲーテ・インスティトゥート東京所長  
ジュード・チェンバース クリエイティブ・ニュージーランド国際事業部長  
湯浅 真奈美 ブリティッシュ・カウンシル アーツ部長
  - 17:10 - 18:00 パネルディスカッション（質疑応答あり）  
（司会）片岡 真実 森美術館 館長／日本現代アート委員会 座長

### 〈参加申し込み〉

ご参加をご希望の方は、下記 URL からご登録ください。ご登録後、ご登録された E メールアドレス宛に招待メールをお送りします。

<https://forms.gle/5Cjcz65gDH72ZLh77>

### 〈オンライン配信〉

連続シンポジウムの様子は、後日、編集後に公開予定です。

〈担当〉 文化庁 文化経済・国際課 課長補佐 林 保太 (内線 4847) 連携推進係 関谷 泰弘 (内線 4844) 電話：03-5253-4111 (代表) 03-6734-4844 (直通)
--

---

## 文化庁アートプラットフォーム事業 連続オンライン・シンポジウム 「「コロナ以降」の現代アートとそのエコロジー」 今後の予定

---

### 第2回 「「コロナ以降」の国際展とは？」(9月ごろ予定)

モデレーター：植松 由佳 (国立国際美術館 主任研究員／日本現代アート委員会 副座長)

### 第3回 「「コロナ以降」の展覧会づくりとは？」(仮) (10～11月ごろ予定)

モデレーター：成相 肇 (東京ステーションギャラリー学芸員／日本現代アート委員会 委員)

### 第4回 「「コロナ以降」の美術とは？アーティストの視点から見る表現・支援の課題」(仮) (12～1月ごろ予定)

モデレーター：大館奈津子 (芸術公社／一色事務所／日本現代アート委員会 委員)

### 第5回 「コロナ禍が浮き彫りにした経済的・社会的構造の変化と文化施設の関係性」(仮) (1～2月ごろ予定)

モデレーター：アンドリュー・マークル (ライター／編集者／日本現代アート委員会 委員)

---

## 文化庁アートプラットフォーム事業とは

---

「文化庁アートプラットフォーム事業 (英語表記：Art Platform Japan)」は、日本における現代アートの持続的発展を目指し、現代アート関係者の意見を幅広く集約し、日本人及び日本で活動する作家とその作品が国際的な評価を高めていくための取組等を推進するものです。

ステアリングコミッティーとして「日本現代アート委員会」(座長：片岡真実 森美術館館長)を設置し、実践的研究を進めるための国際的な専門家ネットワーク構築に取り組むとともに、日本における現代アートに関する重要なテキストの翻訳やウェブサイト等を活用した国内外への発信、全国の美術館を横断した作品情報のデータベース構築に向けた取り組み、若手作家を含めた日本におけるアーティストの国際な活動を後押しする活動を行います。

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka\\_gyosei/artplatform/index.html](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/artplatform/index.html)